

1 題材名 「人生のアイテム」－おこりたくなかったとき編－

◆自立活動の区分，項目との関連

- 2 心理的な安定 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること
- 3 人間関係の形成 (2) 他者の意図や感情の理解に関すること
(3) 自己の理解と行動の調整に関すること

2 題材について

○児童観

【別紙1】

○題材観（設定の理由）

在籍児童の日常の行動観察，学習場面での観察をもとに自立活動の6区分26項目によるチェックをした結果【資料1】，特に「3人間関係の形成」の区分における項目について困難さがあることが明らかになった。児童は，自分が嫌な気分になったり怒ったりすると大声で泣いたり，その場から逃げたり，物を壊したりする行動で感情を表現する傾向がある。

本題材では，児童に怒りの感情が生まれたときに，自分がとってきたこれまでの行動を振り返ったり，これからできると思う行動を考えたりして列挙する。そうして列挙された行動のなかから，自分の怒りの原因の解決につながる行動について考え，その行動のよさを実感して，怒りに対して適切な行動を心がけようとする気持ちを育てたい。

○指導観

児童には，怒りが生まれたときにとる行動を，ゲーム等によく使われる「アイテム」つまり，効果を得るための道具としてそれぞれの行動をまとめさせていく。教師は児童が取ってきた行動やよいと思う行動を捉えやすく分類する。そうしてそのアイテムが自分の怒りに対する適切な行動であったか，あるいは適切な行動となっていくのかを深く考える機会としたい。これまでに児童は，怒ったときの自分の行動の改善についていつも努力しようとしていた。児童がこの機会に考えた適切な行動のよさをしっかり実感して，そのよさをこれからの生活のなかで生かしていけるようにさせたい。本児の実態からよさとは，これまでトラブルになった相手に自分の辛い気持ちを伝えること，そして今後さらにトラブルの解決につながることであると考える。

3 題材の目標

○怒りの原因を解決するため、また、周囲の人に協力してもらえようようにするために、適切な行動をとるように心がける気持ちを育てる。

4 指導計画（計 3 時間）

第 1 次 (2 時間)	・頭にくることがあったとき、どのように行動したか振り返り、またどのように行動できるかを考える。(本時)
	・頭にくることがあったときに、したりしてみようと思ったりした行動のなかで良いと思う行動について話し合い、良いと思う行動を心がけることを確認して、特定期間取り組む。
第 2 次 (1 時間)	・適切な行動を心がけてからの自分と相手の行動や気持ちを振り返り、よかったことをしっかり感じ取って、適切な行動を常に心がけていくことを確認する。

5. 本時の指導

(1) 日時 2016年2月8日(水) 5校時 (14:00～14:45)

(2) 場所 音楽室

(3) 本時の題材名 「頭にきたときに使ったアイテムは？使うアイテムは？」
(第1次第2時)

(4) 本時の目標

区分3-項目(2) 今後頭にきたときに対応するために、どのような行動があるかを考えることができる。

区分3-項目(3) これまでに頭にきたとき、どのような行動で対応していたか振り返ることができる。

(5) 展開

段階 (分)	学習活動	準備物	具体的な手立て・工夫		
			教師の関わり方に関して ○評価	環境 設定	教材 教具
導 入 (12)	1. はじめのあいさつをする。 2. 歌「上を向いて歩こう (Goki Version)」を通して前向きな気持ちを共感する。	拡大歌詞 (掲示用) 打楽器 (スネア ドラム2 ・サスペン ドシンバ ル) ピアノ	・明るい気持ちで取り組めるように笑顔と大きな声を心がけられるように意識させる。	・一緒に楽しく歌う気分になるようにピアノと打楽器を並べる	拡大 歌詞 (掲示用) (児童の 手書き)

	<p>3. 本時の活動を知り，めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>頭にきたときに使うアイテムを考えよう</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・「頭にきた」ときの状況を具体的に例を挙げさせて「頭にくる」という意味を把握させる。 ・児童の経験をもとにめあてが確認できるように話をする。 ・児童から頭にきたときの具体例や経験について言葉が出ないときには教師から，具体例や児童のこれまでの経験を提示できるように用意しておく。 <p>○本時のめあてを前向きな気持ちで捉えられたか。</p> <p style="text-align: center;">【観察】</p>	<p>めあて (マグネットカード)</p> <p>めあて (掲示用)</p>
<p>展開 (25)</p>	<p>4. アイテムを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭にくることがあったときどのように行動をしたか思い出しながらアイテムを考える。 ・その後がどうなったか考えてまとめる。 ・そのほかにできると考えたアイテムと使ったその後がどうなるかを考えてまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童が「水筒を壊した」「畑へ逃げた」等の具体的な行動を表現できたらそれらの行為をまとめて表す「攻撃」「逃げる」「八つ当たり」「我慢」「相談」等の言葉をアイテムとして引き出せるように話をする。 ・これまでの経験について児童の気持ちに共感しながら，児童が前向きな気持ちで振り返られるように話をする。 <p>○これまでの経験やアイテムについて積極的に考えているか。【観察・発表】</p>	<p>マグネットカード(黄色10枚)</p> <p>ホワイトボードマーカー(青)</p>
<p>まとめ (8)</p>	<p>5. 感想発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の感想をまとめる。 	<p>机 筆記用具 ワークシート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・頭にきたときの児童のこれまでに使ったアイテムと新しく考えたアイテムから，よりよいアイテムを生かそうという意欲につながるふりかえりができるように対話する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くときにワークシート緊張しないように黒板に向けて座るようにする。 <p>ワークシート まとめ(マグネットカード)</p>

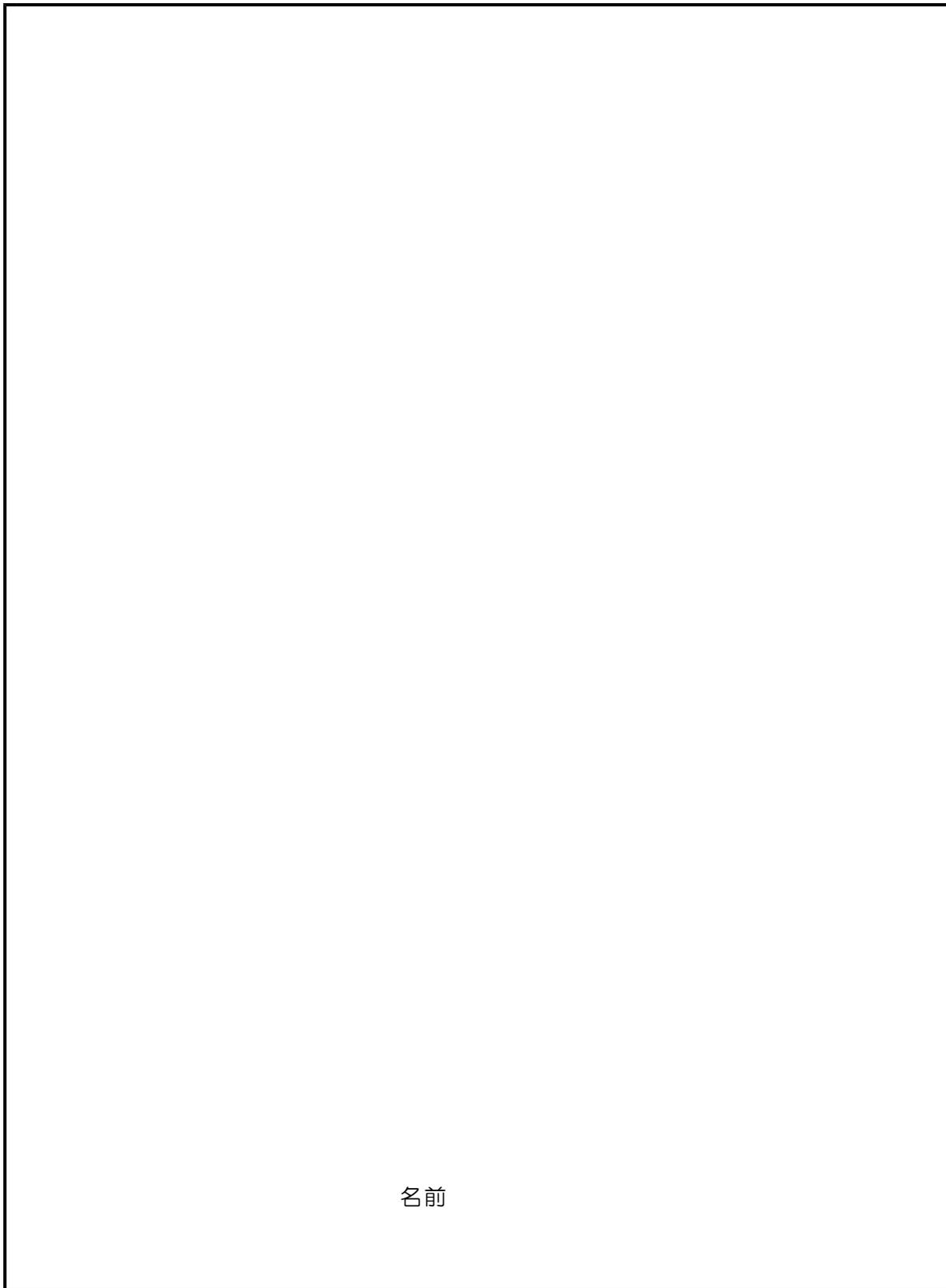
			○ 自分が怒ったときの行動について深く考えられているか。【観察・発表・記述】	
--	--	--	--	--

【資料1】 特別支援学習指導要領「自立活動」の区分、項目（内容）チェック表

◎良い ○指導が必要 △特に指導が必要

区分	項目	
1 健 保 康 持 の	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	
	(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	
	(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	
	(4) 健康状態の維持・改善に関する事	
2 な 心 安 理 定 的	(1) 情緒の安定に関する事	○
	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	○
	(3) 障害による学習上又は、生活上の困難を改善・克服する意欲に 関する事	◎
係3 の 人 形 間 成 関	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	
	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	△
	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	△
	(4) 集団への参加の基礎に関する事	
4 環 把 境 握 の	(1) 保有する感覚の活用に関する事	
	(2) 感覚や認知への特性への対応に関する事	
	(3) 感覚の補助および代行手段の活用に関する事	
	(4) 感覚を統合的に活用した周囲の状況の把握に関する事	
	(5) 認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関する事	
5 身 動 体 き の	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	
	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	
	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	△
	(4) 身体の移動能力に関する事	
	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	
ケ6 コ シ ミ ヨ ユ ン 二	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事	
	(2) 言語受容と表出に関する事	
	(3) 言語の形成と活用に関する事	
	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事	
	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事	△

- 怒りたくなったときに使うアイテムがいろいろ見つけれました。見つけて思ったことを書きましよう。



名前

授業後の研究会

◇授業者の反省

- ・体を動かすことや音楽が好きな児童なので導入に自分が作詞した歌を楽しむ活動を取り入れた。先生方が児童と一緒に歌ってくれたので児童も楽しむことができ、授業のよいスタートがきれた。おかげで児童の緊張感が軽減され授業の中で予想以上の言葉を引き出すことができた。
- ・本時は、今まで児童がとってきたよい行動も改善させたい行動も『アイテム』として捉え、嫌な気分になったり怒ったりした時にどのように行動してきたか振り返ることに焦点をあてた授業を仕組んでみた。児童からは、今までの行動を振り返り、たくさんの考えが出た。
- ・児童がよく集中していたので計画した内容を最後まで行いたいと思い、授業を続けたが、時間が長くなってしまった。
- ・計画していたよりも授業のなかで考えてほしいことや学んでほしいことが多くなり、担任の発問や説明などが日常会話のように早口になったり正しくない言葉遣いになってしまったりした。テンポをもう少しゆっくりにして児童が思考する時間を確保したい。授業時間の制限もあるので発問や声かけの内容の厳選が必要だった。

質疑応答・意見交換

○導入がよかった。

- ・授業の中心となる発問の前に「児童が頑張っていることは」と尋ね、肯定的な言葉をかけるところから入っていて良かった。頑張っていることを肯定的な姿勢で受け止めて課題に入ることで、児童も前向き（ポジティブ）な気持ちで授業にのぞめた。
- ・歌を歌うときにとってもよい表情で歌えていた。
- ・世話をしている植木鉢の花が、ちょうど、本授業の朝に咲いた。その花は、児童にとって花が咲くために水やりを頑張ってきた花なので皆に紹介できて「この花を見て歌って下さい。」という声かけをされていてよかった。

○一人学級の指導について

- ・在籍一人のクラスであって、友達との支え合いや交流が求められない現状がある。よりよい成長を願い、子どもをつぶやきや教師との良好な関係を持って指導をおこないたい。
- ・実態把握を丁寧に行うことで、授業のなかで気づかせたい言葉がひらめく。
- ・子どもから出た言葉を生かすために、前もって児童の反応を100パターン予想して授業を考えるつもりで臨むと良い。

- ・一対一の授業では、架空の人物を登場させたり教職員が失敗する場面を見せたりすることも有効である。

○『アイテム』という言葉について

- ・『アイテム』という言葉の意味を児童がどのようにとらえているのか、この授業で使うことが適切かという指摘を受けた。
- ・ゲームがとても好きな児童で『アイテム』という言葉は理解しているが、日常では

あまり使わない。

- ・『アイテム』の捉え方について教師と児童の間にズレがあったが、教師とのつながりと気持ちが通じる会話から教師の意図を感じ取り、児童がたくさん意見を言っていた。
- ・自分の行動を『アイテム』として捉えさせることに難しさがあった。
- ・逃げる行動について「逃亡」と「避難」があることを確認してよかった。
- ・『アイテム』ではなく、「手立て」「作戦」等の言葉もあり、できるだけデジタルではなくアナログ思考で考えさせたい。
- ・児童が混乱しているところやゲームとして捉えているところをこれからの指導の中で整理していく。
- ・今日の授業で意図したいことをイメージさせられていればよい。
- ・『アイテム』＝「役に立つ道具」という意味で使い方を間違えないようにする。

(×武器、やっつけるもの)

- ・児童本人が納得できる言葉で捉えるのが適切であるが意図がイメージされていなければならぬ。

○教師と児童の関係について

- ・児童の表情がとてもよかった。
- ・短いスパンで「すごいね。」「頑張ってるね。」「いいね。」などたくさんほめていた。
- ・「～やられた」「～された」という言葉が減って「頑張った」「我慢した」という言葉が増えていくと良い。
- ・過去を想起する場面では、教師がきちんと対応してくれた安心感、信頼感があり、色々な話ができた。
- ・最後に「ぼく、これを覚えておこう」という気持で黒板を一生懸命写していてとても良かった。

◇指導助言

- ・非常に難しい授業に挑戦した。これをこれからの授業や生活にどう生かしていくか課題である。解決や達成に長い時間がかかり、長期目標でとりあげられる課題である。容易に評価ができない。中学校生活に向けての内容でもあった。
- ・子どもをとるな行動には、背景があり、外界や環境からの刺激と相互に関連している。
- ・パニックを起こしそうな場面について行動の様子を記録していくとよい。児童が過去をよく思い出すことができていると深く振り返ることができていた。ダメな自分とよい自分があることに気づき、自己理解ができていた。ダメな自分については、恥ずかしいという不快な感情を抱き、そういう自分の行動は、したくないという気持ちにつながられた。他者理解は、子ども同士の話やグループ活動のなかで中学年からできるようになっていく。教師がストレスコーピングの考え方も参考にし、指導や支援を行うこともよい。

【ストレスコーピング】＝ストレスになっている問題を処理しようとする過程

【児童のプリントから】

よかったし、たくさんアイテムがあってよかったし、びっくりしました。

でも、まだ新しいアイテムがあると思うのでたくさん見つけていきたいです。授業その後

今回、今までの怒りの感情が湧いた後の行動を「アイテム」として捉えて話し合ったことで、自分の行動を省みることができ整理できた。特に次時の授業でも、話し合いの時間を持ったので、これまでの行動とこれからの行動についてしっかり考えることができた。また行動を「アイテム」としてとらえたことで、他の場面でも「今は、何かアイテム使える？」と声をかけると授業で列挙した行動を思い浮かべて考えて行動できている。

この授業の後、交流学級の児童とのトラブルは激減したが、内容が難しくなってきた学習に対して怒りの感情が湧くことが増えた。もともと学習の場面においても、学習量の多さや難しさ等で頭にくる姿が見られたので、それらについても「アイテム」を思い出して対応できるよう声かけを続けている。

これからの学校生活の中で、今回の授業で児童が学んだ「アイテム」を生かしながら、適切な働きかけや支援を考えていきたい。